岩盤ボーリング柱状図

調査名	主要地方道　三次高野線　測量設計業務委託（道路災害防除）
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	道路　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.1	調査位置	広島県庄原市口和町 地内	北緯	34° 59' 00.8343"
発注機関	広島県北部建設事務所　庄原支所	調査期間	令和2年 6月 2日～ 令和2年 6月 4日	東経	132° 52' 03.1830"
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 569.07m	角度	180°上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南
総削孔長	11.00m	地盤勾配	35° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦DO-D型
					エンジン：ヤンマー(株)製 TF-90型　ポンプ：東邦製BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日
1	568.07	1.00	礫混じり砂		茶								GL-0.0～0.45m間、表土。砂は細～中砂主体。φ20～50mm程度の流紋岩角礫混じる。所々、木片、植物根を混入。	
2			Lav	流紋岩	褐灰	w2	h2	B	IV	c	CL	GL[0][0][100]	コアは一部礫状をなすが，多くは岩片状である。水平～高角度亀裂が密集する。亀裂面には褐色流入粘土が付着する。	
3	565.92	3.15				w3	h3	C	V	d	D	GL[0][0][100]	2.6～3.15mは強く破砕し，礫状～砂状コア。	6/5 2.60
4						w2	h2	C	III	c	CL	11[11][11][100]	全体に硬質な岩片を有するも，亀裂の増減を繰り返し，短柱状～岩片状コアが入り交じる。亀裂面には広く流入粘土が付着する。	
5								B	II		CM	17[27][100]		
6							h3	C	III		CL	10[10][100]	5.0～6.5m間、高角度の亀裂が発達。亀裂面に褐色粘土が付着する。	
7						w1	h1	B	II	b	CM	28[28][100]		
8			Lav	流紋岩	暗～褐灰	w2		C	IV	c	CL	GL[0][0][100]	6.7m付近，50°で発達する開口節理があり，流入粘土を0.5mm厚で挟在する。	
9									III					
10									IV					
11	558.07	11.00							III	b		GL[0][0][100]	7.55m、7.8m、9.2m、9.55m付近，いずれも5cm内外の幅で局部的に破砕し，細片化する。指圧粉砕可能。	
12									IV	c		10[10][10][100]	8.55～8.65m，65°の節理に沿って，褐色粘土が0.5mm厚で付着する。	
13									III	b				
14									IV	c				
15									III	b		GL[0][0][100]		
16									IV	c				

標準貫入試験					原位置試験	室内試験	削孔状況							
深度－N値図 (0 10 20 30 40 50 60)	N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量		削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
	50以上	1.00	50	50						打込み/打込みシュー	0	0	0	W1/0	0
	50以上	1.05	50												
	50以上	2.00	貫入不能					57	66/ケーシング		200	350			
	50以上	3.00	貫入不能							W/D	250	350			
	50以上	4.00	貫入不能				6/2				400	350			
	50以上	5.00	貫入不能					29							
	50以上	6.00	貫入不能				6/3						0	W2/3	2
	50以上	7.00	貫入不能					79	66		250	350			
	50以上	8.00	貫入不能							W/D					
	50以上	9.00	貫入不能												
	50以上	10.00	貫入不能								350	350			
	50以上	11.00	貫入不能				6/4								